目黒さん 県協議会表彰

永年母子健康推進につくす

村の母子健康推進委員として、永年活躍してこられた目黒幸子さん（47才木津）が、このほど（10月28日付）県母子保健推進協議会から表彰されました。

目黒さんは、昭和四十三年から村の母子健康推進委員として十三年間、農業のかたわら地区と行政のパイプ役として、母親学級、講演会、検診などの参加を積極的に促進され、また、妊産婦の健康や育児のよき相談相手として地道な活躍が今回の表彰となりました。

現在村内には、母子健康推進委員が二十名おり、地区における関係者との連絡相談相手をしています。

横越歌壇

○二十世紀丸ごとかじればさくさくと秋あざやかに身に沁みとおる　戸石ジュン

○赤トンボとぶ遙かなる休耕田人二人いて麦蒔きいそしむ　遠藤　左岸

○しかと子を抱きて掘られし里芋は子のみ食われるそれが運命ぞ　田村　茂理

○山重畳紅葉あやなす奥会津廃屋の部落ひそかに眠る　田村きよし

○阿賀野川瞻き川面に揺れうごく鮭釣り舟の灯赤し　長谷部静恵

○風猛る夜半に目覚めしがうつうつとい寝がたきまま空白みくる　南場　愛子

○殿堂の婦人会館へ学びにきて花咲く庭を友と歩みぬ　佐久間　順

○森林の奔放きわむる生態の戸惑いもなく四季を彩どる　白柏　紗妥

○水盤の花の香つよし眉月の覗く高窓ひそかにひらく　建部　スマ

○身をかたく冷えし布団に横たえば声たえだえに虫が啼くなり　中川美英子

○おのずからさだめの命終りたる赤トンボ落ちぬ水の面へ　田村　忠雄

おめでたよろこび

（10月届）

新郎新婦		地区
「救仁郷」	宮嶋　栄蔵 宮崎　洋子	小杉中 宮崎県
「江部」	市村　憲治 横田　希恵子	横越中 上町
「浅田」	伊藤　優広 亀田　文子	亀田町
「皆川」	本田　正毅 沢川　海子	沢海中
	藤川　根谷 山内	

【お詫び】

マイホームと税金

―住宅取得控除についての訂正―

十一月号で掲載したマイホームと税金について、所得税の改正がおこなわれましたので訂正いたします。

⊙住宅取得控除制度について、その適用対象に既在住宅の取得が加えられたほか、家屋の床面積に基づく控除が三万円から定額控除一万七千円に改められました。またその年の合計所得金額が八百万円を超える年分については、住宅取得控除は受けられないことになっています。そして住宅ローン控除に該当する場合は最高六万円でしたが、最高三万円と改正されました。

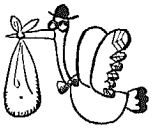
⊙新築された家屋の床面積が一六五平方メートル以下のものとされていましたが、昭和五十六年一月一日以後に居住する住宅は、床面積が四十五平方メートル以上、一六五平方メートル以下と改められました。

主な行事予定

1/4	仕事始め
1/8	選挙管理委員会（役場）
〃	小・中学校始業式
1/13	小学校書初大会
1/14	さいの神（青少協木津支部）
1/15	〃（青少協小杉支部）
1/16～23	小学校書初展
1/17	村民囲碁将棋大会（公民館）
1/20	小学校参観日
1/26	高令大（公民館）
1/29	進学保護者会（中学校）
1/31	俳句大会（公民館）
〃	村民スキー教室（五日町）

「五十嵐川」	朝子宏	横越市中
「神田渋谷」	正一 弘子	横越中 沢海中
「五十嵐宇野」	栄一 恵美子	横越市中 新潟市
「中村中村」	正敏 和子	横越上 横越上
「小山関」	忠考 歌子	亀田町下 沢海
「伊藤阿部」	正作 政子	京ケ瀬村 駒込
「佐藤大越」	恭一 藤子	小杉市中 新潟

おめでたよろこび



（10月届）

新生児	親名	地区
佐藤久美子	勤	横越上
仲村　友美	友夫	二本木中
神田　基	敏弘	横越中
風間　富子	東治	駒込
渡邊　広野	論	横越下
駒沢　芳樹	辰二	横越中
駒沢　香織	辰二	横越中
長谷部裕美	勝男	川根谷内

おみやく

（10月届）

故人	年令	地区
佐藤ミサヲ	61	横越下
佐藤　ソイ	73	横越上
羽田由美子	30	横越下
山谷　冨作	68	横越上
植木　治	45	二本木上

第八回 村民スキー教室募集

受付1月20日まで

開催日　57年1月31日（日）

場所　五日町スキー場

参加費

○一般、高校生三千円

○小・中学生　二千円

○幼児　一千円

（参加費に含まれるもの、交通費、中食代、ただし幼児の中食代は除かれます。）

申し込み方法

公民館に所定の申し込み用紙を用意してありますので、この用紙で申し込みを。（電話での申し込みはご遠慮を）

受付期間

57年1月4日～1月20日迄

主催　横越村体育協会、横越村公民館

合村八十周年シリーズ

村の今昔

沢海メーンストリート

昔沢海は溝口家のあった城下町で、光円寺前から幅広い一直線の街道とただずまいは今でも往時がしのばれる感じです。

今は、街道は舗装され北方博物館（豪農の館）参観のバスや自家用車が、毎日ひんぱんに往来し（年間入館者二十万人）賑わっています。